

# 二〇二四年度 入試問題体験会

## 国 語

【注 意】

- ・ 試験時間は三〇分です。
- ・ 問題は一ページから五ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らん  
二行以上解答してはいけません。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

95

90

85

80

75

70

65

---

130

125

120

115

110

105

100

## 問一

——(1)「かなりあとのことになります。」とありますが、それはなぜですか。次のア～エの中から、最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ルネサンス以降の科学的進歩によって、ヒトの由来については宗教や一般的な人々の間で話題になりにくくなり、ダーウインの登場を待たなければ科学的には説明できなかったから。

イ ルネサンス以降の科学的進歩の流れの中でも、人類の起源については、万能の神を仮定して説明する創世神話や、人間を他の生物と同列に扱うことに社会の中で違和感があつたから。

ウ ルネサンス以降の科学史において、ヒトの祖先である動物がいかなる姿形をしていたのかについての想像力は、創世神話の中にある説明と、さほど大きな違いが見られなかったから。

エ ルネサンス以降の科学の進歩が私たちの世界観を大きく変えたにせよ、人類進化のシナリオは、これからの化石人類学者の発見により変更しなければなくなるケースもあるから。

## 問二

——(2)「神の存在」とありますが、これをわかりやすく言い換えた二十字以内の表現を抜き出しなさい。

## 問三

——(3)「『科学は間違うものだ』とありますが、これは、どういう点において言っていますか。「科学は…という点。」という形にして、三行以内で説明しなさい。

## 問四

——(4)「ホモ・サピエンスは、六万年前以降にアフリカから本格的に世界へと展開します。」とありますが、ここで筆者は、考古学や自然人類学の研究によって明らかになったことをもとに、どういう視点が大切だと考えていますか。「世界中の様々な文明は、…という視点。」という形にして、三行以内で説明しなさい。

問五 ―― A「人類進化の時間スケール」とありますが、「人類進化の時間スケール」に関する以下の【資料Ⅰ】（たて書きにしてあります）、【元子さんの気づき】【探究ノート1】～【探究ノート4】をそれぞれ読み、後の問い(一)・(二)に答えなさい。

【資料Ⅰ】  
〔内閣府ホームページ〕より抜粋

### Society 5.0 に向けて

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

### Society 5.0 地球の未来を叶える切っ掛け

我が国が目指す未来社会 Society 5.0。サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムによって開かれるこの社会を、あなたはどう想像しましたか。政府では、Society 5.0 への理解をより深めていただくための動画を作成しました。これら動画は、Society 5.0 の実現に向け、関連する各種の取組でも積極的に活用していきます。また、これらの動画は内閣府ホームページ利用規約に基づいて、どなたでもご利用いただけますので、産官学の様々な場面で是非御活用ください。

### 【元子さんの気づき】

元子さんは、学校の授業で「ソサエティ5.0」という言葉を知り、家に帰って内閣府のホームページを開いたところ、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）という区分があるのを知りました。そして、それぞれ区分された社会が人類の進化史の中でどのくらいの時期にあたるかを調べ、ホモ・サピエンスが六万年前以降にアフリカから本格的に世界へと展開したと想定した上で、【探究ノート1】～【探究ノート4】にまとめました。すると元子さんは、人類の進化の歴史と内閣

府の伝える社会のあり方とで、明らかに観点が違うように感じました。

### 【探究ノート1】

狩猟社会（狩猟採集社会） 六〇、〇〇〇年前～一二、〇〇〇年前  
狩猟採集社会とは、野生の動植物の狩猟や採集を生活の基盤とし、ホモ・サピエンスが世界へと展開し始めた六〇、〇〇〇年前から、農耕が開始された新石器時代（一二、〇〇〇年前後）まで全ての社会である。

### 【探究ノート2】

農耕社会 約一〇、〇〇〇年前～十八世紀半ば（一、七〇〇年代半ば）  
人類は誕生後、七〇〇万年の大半を狩猟採集で過ごしてきたが、約一万年前、地球が比較的温暖な間氷期に入ると農耕や牧畜を始めた。農耕社会とは、それが世界に広がり、現在に至る社会である。

### 【探究ノート3】

工業社会 十八世紀半ば～一九八〇年代  
工業化とは、十八世紀半ばのイギリスで始まった、農耕社会から産業社会への転換のことである。工業社会とは、そのように農業中心から工業中心社会へと変わっていき、現在に至る社会である。

### 【探究ノート4】

情報社会 一九七〇年代～現在  
情報社会とは、物や資産、資本などの財力より、知識や情報が優位となり、一九七〇年代後半から一九八〇年代にかけて、アメリカ、日本、旧西ドイツ、イギリスなどの先進工業諸国が相次いで移行した社会のあり方である。

(一) 元子さんが作成した【探究ノート1】～【探究ノート4】から言えることとして、最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 狩猟社会の時間的スケールは、農耕社会から工業社会へと移行する時間的スケールを合わせた長さとはほぼ同じである。

イ 工業社会は、農耕社会から現在の情報社会へ移行するまでの過渡期として長い間位置づけられたが、もう残っていない。

ウ 工業社会と情報社会を足した時間的にスケールは、狩猟社会と農耕社会の時間的スケールの二〇〇分の一にも満たない。

エ 情報社会の時間的スケールは短く、工業社会の時間的スケールに比べると五分の一以下であるが、全世界に拡散した。

(二)

【資料Ⅰ】と、【探究ノート1】と【探究ノート4】を比較した元子さんは、「内閣府」は何を指し、一方で、何について考察していないと考えると想像できますか。「内閣府」は…を指し、一方で、…について考察していない。」という形で、三行以内で説明しなさい。

問六

A 〽 D に入れる語としてふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選びなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア ですから    イ そして    ウ ただし    エ つまり

問七

——ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人類の起源や進化についての科学的な議論が必要とされるのは、化石人類の進化理論が無<sup>むびょうせい</sup>謬性を目指しているからである。

イ 最古のホモ・サピエンスは五万年前のアフリカを起源とするという通説も、近年の発掘<sup>はっくつ</sup>調査の進展により疑われ始めている。

ウ 進化論を発表したダーウインの成功の背後には、人類進化の証拠<sup>しょうこ</sup>を求めて化石を発掘し続ける科学者たちの努力があった。

エ 現生人類であるホモ・サピエンスは、生物進化のセオリーから考えて、今後、別の種に変化していくことは間違いないだろう。



